## CQ9 静脈血栓塞栓症の予防に圧迫療法は有用か? CQ9-(2) 一般外科・泌尿器科・婦人科.

推奨 9	クラス	エビデンスレベル			
一般外科•泌尿器科•婦人科手術周術	I	В			
期の静脈血栓塞栓症予防に弾性ストッ					
キングを使用する。					
参考文献	研究形式	対象(研究/症例)	介入	対照群	結果
	システマティ				評価:DVT
	ックレビュー				①弾性ストッキング単独(9 研究, 1292 例)
				弾性ストッキングな し群(抗凝固療法 併用においては、 抗凝固療法単独)	結果: DVT 発生率は弾性ストッキングなし群
					21.2%(133/627 例)に対し、弾性ストッキングあり群
		外科手術患者を中 心とする 17 件の RCT(2412 例)	弾性ストッキングあ		8.6%(57/665 例)と有意に減少(相対リスク減少率(SE)
					66% (10) , 2p < 0.00001) 。
Roderick 2005					②弾性ストッキングを抗凝固療法に併用(8 研究, 1120
					例)結果: DVT 発生率は弾性ストッキングなし群
Roderick 2005					19.4%(108/556 例)に対し、弾性ストッキングあり群
					9.6%(54/564 例)と有意に減少(相対リスク減少率(SE)
					$60\%~(12)$ , $2p < 0.00001)_{\circ}$
					③弾性ストッキング単独+併用(17 研究, 2412 例)
					結果: DVT 発生率は弾性ストッキングなし群
				20.4%(241/1183 例)に対し、弾性ストッキングあり群	
				9.0%(111/1229 例)と有意に減少(相対リスク減少率(SE)	
					63% (8), 2p < 0.00001).

Sachdeva A, 2018	システマティ	計 19 件の RCT(一	弾性ストッキングあ	弾性ストッキングな	評価:全 DVT、近位型 DVT、および PTE
	ックレビュー	般外科手術 10 件,	り群	し群	結果: DVT 発生率は弾性ストッキングなし群の
		整形外科手術6件,			21%(282/1328 例) に対し弾性ストッキング群では
		脳神経外科手術・			10%(134/1365 例)と有意に減少(p< 0.0001, オッズ比:
		心臟外科手術•婦			0.35 95%信頼区間(CI)0.28-0.44; 19 研究; 2693 例の解
		人科手術の各 1			析)。
		件,)			近位 DVT の発生率は,弾性ストッキングなし群
					6%(28/438 例)に対し弾性ストッキング群 2%(7/437 例)と
					有意に減少(p<0.001 オッズ比:0.26 95% CI 0.13-0.53;
					7 研究; 876 例の解析)。
					PTE の発生率は弾性ストッキングなし群 5%(14/286 例)
					に対し弾性ストッキング群 2%(5/283 例)と有意に減少
					(p=0.04 オッズ比:0.38(95%C I 0.15 ~ 0.96; 5 研究;
					569 例の解析)。
Colditz 1986	メタ解析	一般外科手術(胸	弾性ストッキング群	予防なし群(29 研	評価:DVT
		部•腹部外科手術、	(8 研究,532 例), 未	究, 2785 例)	結果:DVT発生率は予防なし群 27.0%(752/2785 例)
		婦人科手術、前立	分画へパリン+弾性		(95%CI 21.9%-32.1%)に対し, 弾性ストッキング群 11.1%
		腺手術)	ストッキング群(2 研		(59/532 例)(95%CI 5.3%-16.8%), 未分画へパリン+弾性
			究, 142 例), IPC+		ストッキング群 6.3%(5/142 例)(95%CI 0%-17.6%), IPC+
			弾性ストッキング群		弾性ストッキング群 4.5%(5/112 例)(95%CI 0%-17.6%)と
			(3 研究 112 例)		介入群はそれぞれ有意に減少(介入群間の比較検定
					ない。
Agu 1999	レビュー	一般腹部外科の	弾性ストッキングあ	弾性ストッキングな	評価:DVT
		RCT9 件(1505 例)	り群(748 例)	し群(757 例)	結果: DVT 発生率は弾性ストッキングなし群
					19%(144/757 例)に対し、弾性ストッキングあり群 7%
					(51/748 例)と有意に減少(Odds Ratio: 0.31(0.22-0.44),

					Risk reduction 64%).
Insin 2021 <sup>10)</sup>	システマティ	婦人科手術(特に	弾性ストッキング、	無治療	評価:VTE、大出血
	ックレビュー	腹部骨盤手術)の	IPC、未分画へパリ		結果: SUCRA 法による VTE 発生を低下させる治療効果
	(メタ解析と	RCT20 件(4970 例)	ン、低分子量へパリ		の順位は、弾性ストッキング+低分子量へパリン
	ネットワーク		ン等の抗凝固療法		(91.0%)、IPC+低分子量へパリン(76.6%)、弾性ストッ
	メタ解析)		各種、とそれらの組		キング(75.4%)の順であった。VTE 発生と大出血の抑制
			み合わせ		効果(SUCRA 値)のクラスタープロットにて IPC+低分子
					量へパリン併用が最も安全かつ有効であった。

CI, confidence interval、信頼区間

DVT, deep vein thrombosis、深部静脈血栓症

IPC, intermittent pneumatic compression、間欠的空気圧迫法

PTE, pulmonary thromboembolism、肺血栓塞栓症

RCT, randomized controlled trial、ランダム化比較試験

SE, standard error、標準誤差

SUCRA, Surface Under the Cumulative Ranking Curves

VTE, venous thromboembolism、静脈血栓塞栓症

## 文献

Roderick P, Ferris G, Wilson K, et al: Towards evidence-based guidelines for the prevention of venous thromboembolism: systematic reviews of mechanical methods, oral anticoagulation, dextran and regional anaesthesia as thromboprophylaxis. Health Technology Assessment 2005; 9: 1–97

Sachdeva A, Dalton M, Lees T: Graduated compression stockings for prevention of deep vein thrombosis. Cochrane Database Syst Rev. 2018;11(11):CD001484.

Colditz GA, Tuden RL, Oster G: Rate of vein thrombosis after general surgery: combined results randomized clinical trials. Lancet 1986; 2: 143-146.

Agu O, Hamilton G, Baker D: Graduated compression stockings in the prevention of venous thromboembolism. Br J Surg 1990; 86: 992-1004.

Insin P, Vitoopinyoparb K, Thadanipon K, et al: Prevention of venous thromboembolism in gynecological cancer patients undergoing major abdominopelvic surgery: a systematic review and network meta-analysis. Gynecologic Oncology 2021; 161: 304-313.

推奨 9	クラス	エビデンスレベル	エビデンスレベル			
一般外科•泌尿器科•婦人科手術周術	I	A				
期の静脈血栓塞栓症予防に間欠的空						
気圧迫法を施行する.						
参考文献	研究形式	対象	介入	対照群	結果	
Roderick 2005	システマティ	外科手術患者を中	IPC あり群(単独)	IPC なし群	評価:DVT	
	ックレビュー	心とする 19 の			結果:DVT 発生率は IPC なし群 23.4%(268/1147 例)に	
		RCT(2255 例)			対し, IPC あり群 10.1%(112/1108 例)と有意に減少(相対	
					リスク減少率(SE) 66% (7), 2p < 0.00001)。	
Но 2013	メタ解析	外科手術患者を中	IPC あり群	IPC なし群	評価:DVT および PTE	
		心とする計 70 件の			結果:IPC あり群は、IPC なし群と比較して、VTE 発生を	
		RCT:うち一般外科			有意に減少。	
		17 件(泌尿器科を			DVT 発生率(40 試験。IPC あり 7.3%に対して IPC なし	
		含む、24 %),婦人			16.7%。絶対リスク減少, 9.4%; 95% CI, 7.9-10.9;	
		科手術 4 件(6%)			relative risk, 0.43;95%CI, 0.36-0.52; p<0.01)。	
		(計 16,164 名)			PTE 発生率(26 試験。IPC あり 1.2%に対して IPC なし	
					2.8%。絶対リスク減少, 1.6%;95%CI, 0.9-2.3;RR,	
					0.48;95%CI, 0.33-0.69; p<0.01) <sub>o</sub>	
Insin 2021	システマティ	婦人科手術(特に	弾性ストッキング、	無治療群	弾性ストッキングと低分子へパリンの併用が最も VTE の	
	ックレビュー	腹部骨盤手術)20	IPC、未分画へパリ		発症を抑制した. 出血イベントも含めた解析では IPC と	
	(メタ解析と	の RCT で 4970 名	ン、低分子量へパリ		低分子へパリンの併用が最もバランス優れていた。	
	ネットワーク	を研究	ン等の抗凝固療法		SUCRA 法による VTE 発生を低下させる治療効果の順	

解析)	各種、とそれらの組	位は、弾性ストッキング+低分子量へパリン(91.0%)、
	み合わせ	IPC+低分子量へパリン(76.6%)、弾性ストッキング
		(75.4%)の順であった。VTE 発生と大出血の抑制効果
		(SUCRA 値)のクラスタープロットにて IPC+低分子量へ
		パリン併用が最も安全かつ有効であった。

CI, confidence interval、信頼区間

DVT, deep vein thrombosis、深部静脈血栓症

IPC, intermittent pneumatic compression、間欠的空気圧迫法

PTE, pulmonary thromboembolism、肺血栓塞栓症

RCT, randomized controlled trial、ランダム化比較試験

RR, risk ratio、リスク比

SE, standard error、標準誤差

SUCRA, Surface Under the Cumulative Ranking Curves

VTE, venous thromboembolism、静脈血栓塞栓症

## 文献

Roderick P, Ferris G, Wilson K, et al: Towards evidence-based guidelines for the prevention of venous thromboembolism: systematic reviews of mechanical methods, oral anticoagulation, dextran and regional anaesthesia as thromboprophylaxis. Health Technology Assessment 2005; 9: 1–97

Ho KM, Tan JA: Stratified Meta-Analysis of Intermittent Pneumatic Compression of the Lower Limbs to Prevent Venous Thromboembolism in Hospitalized Patients. Circulation. 2013; 128: 1003-1020

Insin P, Vitoopinyoparb K, Thadanipon K, et al: Prevention of venous thromboembolism in gynecological cancer patients undergoing major abdominopelvic surgery: a systematic review and network meta-analysis. Gynecologic Oncology 2021; 161: 304-313.

推奨	クラス	エビデンスレベル				
ハイリスク一般外科・泌尿器科・婦人科	Па	В				
手術の周術期の静脈血栓塞栓症予防						
予防に、抗凝固療法に間欠的空気圧迫						
法または弾性ストッキングを併用する。						
参考文献	研究形式	対象	介入	対照群	結果	
	RCT		標準予防策(低分	標準予防策(低分	評価:VTE	
		Caprini score が 11	子量ヘパリンおよ	子量へパリおよび		
Lobastov 2021		以上の最高リスク手	び弾性ストッキン	弾性ストッキング)を		
Lobastov 2021		術患者(うち一般外	グ)に加え IPC を術	受けた患者(203		
		科 64.2%)	前から使用した群	例).	賴区間 0.01-0.21)。	
			(204 例).	N 10.	18E FG 0:01 0:21/0	
Insin 2021	システマ	婦人科手術(特に	弾性ストッキング、	無治療群	弾性ストッキングと低分子へパリンの併用が最も VTE の	
	ティックレ	腹部骨盤手術)20	IPC、未分画へパリ		発症を抑制した. 出血イベントも含めた解析では IPC と	
	ビュー(メ	の RCT で 4970 名	ン、低分子量へパリ		低分子へパリンの併用が最もバランス優れていた。	
	タ解析とネ	を研究	ン等の抗凝固療法		SUCRA 法による VTE 発生を低下させる治療効果の順	
	ットワーク		各種、とそれらの組		位は、弾性ストッキング+低分子量へパリン(91.0%)、	
	解析)		み合わせ		IPC+低分子量へパリン(76.6%)、弾性ストッキング	
					(75.4%)の順であった。VTE 発生と大出血の抑制効果	
					(SUCRA 値)のクラスタープロットにて IPC+低分子量へ	
					パリン併用が最も安全かつ有効であった。	
Kakkos 5, 2022	システマ	計 34 件の研究	IPC+薬理学的予	①IPC 単独群	評価:DVT, PTE, 出血、大出血	
	ティックレ	(RCT25 件, CCT9	防法併用群	②薬理学的予防法	① 併用群とIPC 単独群との比較	
	ビュー	件),手術または外	薬理学的予防法に	単独群	結果:症候性 PTE の発生率は IPC 単独群の 1.96 %	
		傷で入院患者	は、未分画へパリ		(34/2346 例)に対し、IPC+薬理学的予防法併用群	
		(14,931 名)	ン、低分子量へパリ		0.71%(19/2671 例)と有意に減少(OR 0.51, 95%CI	

13.00	week and the state of the state
ン、フォンダパリヌク	0.29-0.91, p=0.02;16 の研究, 5017 名の患者(整形外
ス、ワーファリン、直	科を除く))。
接経口抗凝固薬、	DVT発生率はIPC単独群3.46% (80/2310)に対し,併
などを含む。	用群 1.59% (42/2639)と有意に減少(OR 0.46, 95%CI
	0.31-0.68, p<0.0001;15 の研究, 4949 名の患者(整形
	外科を除く))。
	出血合併症は IPC 単独群 0.89%(19/2143 例)に対し,
	併用群 5.88% (123/2091 例) であり, IPC に薬理学的予
	防法を追加することで有意に出血合併症の頻度が増加
	(OR 6.61, 95%CI 4.14-10.56, p<0.00001;11件の研究,
	4,234 名の患者(整形外科を除く))。
	大出血においても IPC 単独群 0.37 %(7/1893 例)に
	対し、併用群では 2.45%(45/1840 例)と有意に増加
	(OR 5.91, 95%CI 2.83-12.36 p<0.00001; 10 件の研
	究、3733名の患者(整形外科を除く))。
	② 併用群と薬理学的予防法群との比較
	結果:症候性 PTE 発生率は,薬理学的予防法単独
	2.17%(59/2713 例)に対し、併用群 1.06%(30/2822
	例)と有意に減少. (OR 0.46、95%CI 0.30~0.71,
	p=0.0005;7 件の研究、5535 名の患者(整形外科を除
	<))。
	DVT 発生率は、薬理学的予防単独群 8.45%
	(132/1563)に対し、併用群 7.01%(106/1513)と減少
	傾向が見られたが、有意な変化ではなかった。(OR
	0.46、95%CI 0.13~1.61, p=0.22;7 件の研究、3076 名
	の患者(整形外科を除く))。出血および大出血合併症

					の頻度は両群で有意差はなかった。
Fan C & 2020	システマティックレビュー	計8件のRCT(9713 例)内訳;手術患者6件(4834例), 内科患者2件(4879例)	群 抗凝固療法は、未	抗凝固療法単独群	評価:DVT, PTE 結果:①DVT(7 件, 4864 例); 全体として、抗凝固療法単独群(DVT 発生率、5.36%: 131/2445)と比較して、抗凝固療法半1PC 群(DVT 発生率、:3.51%: 85/2419)は DVT リスクを 43%減少させた(RR 0.53、95%CI 0.35-0.93、12 = 54%, p=0.02)。 外科患者群(5 件、2242 例)では、抗凝固療法単独群(DVT 発生率、3.21%:36/1120)と比較して、抗凝固療法半IPC 群(DVT 発生率、:0.89 %: 10/1122)は DVT リスクを 70%減少させた(RR 0.30、95%CI 0.15-0.59、12 = 0%, p=0.0005)。 ② PTE(6 件, 4993 例); 全体として、抗凝固療法単独群(PTE 発生率、:2.47%: 60/2426)と比較して、抗凝固療法+IPC 群(PTE 発生率、:1.17%: 30/2567)は PTE リスクを 54%減少させた(RR 0.46、95%CI 0.30-0.72、12 = 0%, p=0.0006)。 外科患者群(5 件、2990 例)では、抗凝固療法単独群(PTE 発生率、:3.54%: 50/1414)と比較して、抗凝固療法単独群(PTE 発生率、:3.54%: 50/1414)と比較して、抗凝固療法+IPC 群(PTE 発生率、:1.40%: 22/1576)は PTE リスクを 60%減少させた(RR 0.40、95%CI 0.24-0.65、12 = 0%, p=0.0002)。

CCT, controlled clinical trials、(ランダム化はされていない)対照比較臨床試験

CI, confidence interval、信頼区間

DVT, deep vein thrombosis、深部静脈血栓症

IPC, intermittent pneumatic compression、間欠的空気圧迫法

OR, odds ratio、オッズ比

PTE, pulmonary thromboembolism、肺血栓塞栓症

RCT, randomized controlled trial、ランダム化比較試験

RR, risk ratio、リスク比

SUCRA, Surface Under the Cumulative Ranking Curves

VTE, venous thromboembolism、静脈血栓塞栓症

## 文献

Lobastov K, Sautina E, Alencheva E, et al: Intermittent pneumatic compression in addition to standard prophylaxis of postoperative venous thromboembolism in extremely high-risk patients (IPC SUPER): a randomized controlled trial. Ann Surg 2021; 274. 63-69.

Insin P, Vitoopinyoparb K, Thadanipon K, et al: Prevention of venous thromboembolism in gynecological cancer patients undergoing major abdominopelvic surgery: a systematic review and network meta-analysis. Gynecologic Oncology 2021; 161: 304-313.

Kakkos SK, Kirkilesis G, Caprini JA, et al: Combined intermittent pneumatic leg compression and pharmacological prophylaxis for prevention of venous thromboembolism. Cochrane Database Syst Rev 2022;1(1):CD005258

Fan C, Jia L, Fang F, et al: Adjunctive Intermittent Pneumatic Compression in Hospitalized Patients Receiving Pharmacologic Prophylaxis for Venous Thromboprophylaxis: A Systematic Review and Meta-Analysis. J Nurs Scholarsh. 2020; 52: 397-405...